

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 金丸福祉会
施設名	金丸ぷらす保育園
報告者（役職）	萩尾 樹里（分園長）
住所・連絡先	福岡県久留米市津福本町507
	☎ (0942) 39-1200
	E-mail mail@kanamaru.jp

○タイトル（保育計画）

手を貸して！力を合わせて登ったら、気持ちいい風が吹くよ～
～展望台で風を感じよう！～

○主な助成備品

・大型木製遊具

1. 保育計画策定の目的

当保育所は、福岡県久留米市にある。久留米市といえば、松田聖子さんやチェッカーズ、田中麗奈さん、吉田羊さん等多数の芸能人を輩出している地域であると言えれば少し身近に感じて頂けるだろうか。

当該保育所は、金丸保育園（1981年開園。以下本園）の分園とし、2014年9月より開園した。本来分園は20名前後の未満児の受け入れを原則としているが、子どもは、0歳から5歳までが一緒に過ごすことで、それぞれの年齢に様々な役割がある。子ども達の保育環境を考え、0歳から5歳までの一貫（継続）した保育が必要だと考え、定員60名の0歳から5歳までの受け入れをする分園とした。

当該保育所には、約200坪の園庭があるものの、大きな遊具がない。分園には小さな園庭を設置する予定であったが、急遽広い園庭を購入した経緯があり、開園に遊具まで手が届かなかった。

広い園庭で子ども達は、走ったり、ボールで遊んだり、様々な遊びに取り組んでいるが、もっと大型遊具を使って、ダイナミックに遊んだり、手足の力を使った遊びを展開したり、子ども達の遊びの幅を広げたいと思っている。そこで、今回は、園庭に大型遊具を設置することで、子ども達の遊びの幅を広げていきたいと考えている。

2. 具体的な実施内容

広い園庭で、走ったり、ボールや三輪車といった遊びで遊んでいたが、同じような遊びが続き、遊び方に偏りが出ていた。子ども達の園庭での動きを大型遊具等が揃う本園と比べると遊び方の偏りがあり、このままではいけないという危機感があった。物的環境をより整え、大型遊具を用いてお友達と協力して遊ぶ楽しさを知ったり、並ぶことや待つ事を知ったり、手足を十分に使いながら全身を使ってダイナミックに遊ばせたい！と思うようになった。

そこで、保育士同士で話し合い大型遊具を使って、子ども達にどのような力をつけさせたいのかを考えた。その中で、たくさん出た意見の中のいくつかを紹介したい。

- 1、本園の子ども達と比べ、人数が少ない為、待つ時間が少なく、待つ事が苦手である。
また普段からも園内での玩具の貸し借りが少ない。
- 2、近年、手・足の筋力低下の為、何も無いところで転んだり、怪我をすることも多いので、筋力をつけたい。
- 3、協力しながらチャレンジ出来るような大型遊具がいい。

保育士の意見や子ども達の意見を基に、大型遊具の設計をお願いすることにした。最終的に遊具には以下のような意見も取り入れた。

- ・木製とすることで、木のぬくもりや感触を体感できるようにしたい。
- ・遊具の上に登るには、登り棒、丸太、ネット等から登れるようにし、展望台をつけることで高さを出し、年上の子が年下の子の見本となったり、手を貸したりすることで、社会性・協調性を育みたい。また、高さが出た分、難しくなるが、子ども達の創造性を育て、運動機能の発達を促したい。
- ・展望台に登れた達成感を得たり、風を感じることで、自然と対話をして欲しい。
- ・手の力が弱い子が多いことから、雲梯をつけたい。
- ・滑り台は、夏でも滑れるように、また子ども達が滑っている時に、イマジネーションを掻き立てられるようチューブスライドにし、ワクワクする動きを出したい。
- ・滑り台では、前の人が滑り終わったら滑り始めるなどのいくつかの“お約束”を決め、ルールや待つ事も含めた遊具遊びの展開をしていきたい。

このように遊具の一つひとつに意味を持ち、金丸ぷらす保育園オリジナルの大型遊具を設計した。

3. その成果と評価

大型遊具が設置され子ども達が初めてその遊具に出会った時の、子ども達が興味津々に近寄る姿や遊具まで走っていく姿は大変印象深いものであった。

大型遊具を通して、以前よりも友達と協力して遊んだりする姿が見られるようになった。また、意図をもって高さを出し階段をつけない設計にしていたのだが、私たち保育士の想像以上に子ども達が工夫し協力し、遊具で遊んでいる姿が見られる。以下に成果をまとめている。

- 1、子ども達が今まで以上に、明るい空の下、楽しく元気に遊ぶことが出来るようになった。
- 2、大型遊具を通して、以上児（3歳以上の子ども達）の子ども達は今まで以上に友達と協力して遊んだりする姿が見られる。
- 3、未満児（2歳児以下の子ども達）は、以上児の姿を見て模倣し、大型遊具にチャレンジする姿が見られる。その際、小さな子の遊びの手伝いや教える以上児の姿が見られる。それらは、何もない園庭よりも遊具を使うことにより機会が増える。
- 4、大型遊具を使つての遊びから得られる成功体験が、運動する意欲にも繋がっている。
- 5、今までとは違い高さのある遊具で遊ぶことで、危険を自ら察知するようになった。また子ども達でも声を掛け合う姿が見られる。
- 6、雲梯では、遊びの中で、自然と手や腕の力がついている。鉄棒などにも積極的にチャレンジする姿も見られるようになった。
- 7、何もない園庭では出来なかった、渡る、ぶら下がる、登る、降りる、滑るなど、全身を使って遊ぶことにより、体のバランスをとる動きや、体を移動する動きを体験できている。
- 8、夢中になって遊ぶことで、体力向上にも繋がってきている。
- 9、ルールを守り遊ぶことができるようになった。
- 10、木のぬくもりや、風を感じる事が出来るようになった。また木の変化を楽しんでいる様子が見られる。

以上の成果を感じているが、子どもがこれらの報告以上にパワーを持ち、意欲的に遊びを展開している。これらの報告を、写真を用いて一部報告する。

◎大型遊具を設置し、初めて大型遊具を目にした際、子ども達は目を輝かせながら走って大型遊具に向かっていった。



◎階段を設置せず子ども達の力を信じることにした。その為登るために様々な工夫をし、子ども達はこれらの遊具での遊びを展開していった。小さな子ども達に様々な方法で登り方を教える子ども達もいた。一緒に登りながら教える子、上から声を掛け教える子と子ども達の個性が光った。小さな子が登る際は、先生は近くや後ろから危険のないように見守るだけである。あくまで子ども達同士での遊びの展開を重視し、先生は出来るだけ声を出さないようにしていた。



最初は、教えて貰いながら登っていた小さな子ども達も、一人で登れるようになりました。



◎園庭には、木陰がなかったので遊具の下で休憩したり、ゆっくりする姿もみられます。
また、柱で遊ぶ姿も・・・。



◎怖がっていた吊り橋や登り棒も今では笑顔がたくさん見られます。



4. 今後の課題と展望

何もなかった広い園庭に少しずつ遊具が加わり、子ども達の遊びが広がり続けている。子どもは私達大人が考えるよりも、たくさんの想像力とパワーを持ち合わせている。今後も子ども達の発達や私たちの想像を超える遊びが展開されるように環境を整えていきたいと考えている。

最後になりましたが、子ども達が楽しく毎日過ごせる大型遊具の一部を助成して頂いた第一生命財団に心より御礼を申し上げます。今後数十年に渡り、何百人もの子ども達がこの大型遊具を使い、ダイナミックにそして他のお友達に優しさを持ちながら遊んでいくことと思います。モノを大切に作る心を伝えながら、今後も今以上に子ども達と大切にしていきたいと思っています。ありがとうございました。

